

# 花と、緑と、笑い声。 田舎のようにくつろげる バリアフリーのお宿

NPO法人 まついだ森の家  
(群馬県松井田町)



自身や家族に障がいがあったり、高齢だったりして、“旅をあきらめる”理由となりがちなのが“お宿”です。浅間山や軽井沢に近い群馬県松井田町には、全国でも珍しいバリアフリーペンションの「まついだ森の家」があります。梅雨のある日、お邪魔をしました。

「まついだ森の家」は、静かな里山の中腹にあります。訪れた日はあいにくの雨でしたが、その雨が山の緑と咲く花々を美しく引き立てます。「こんにちは」と声をかけると、「いらっしやいませ」と笑顔の女性がお出迎え。宿を切り盛りする黒羽知代さん(右上写真のメガネをかけた女性)です。周囲の自然に溶け込むように、木を基調とした屋内は、清潔感がありつつモダン。お邪魔した日はちょうど、『のんびる』7月号の障がい者アート特集で紹介した高崎市の工房あかねの展覧会が開かれ、ペンション全体が、まるで美術館のようです。「この前、神宮和也さん(7月号紹介)がひとりで泊まりに来てくれましたよ。あかねさん以外にも、障がい者が手がけた絵画や書をいつも展示しているんです」

取材日には11人のグループから予約が入り、車いすの方や杖が必要な方など、障がいや病気のある方が多く来られることになっていました。黒羽さんはじめ、ボランティアスタッフの皆さんが準備に勤しみ、夕方、一行が無事に到着。車いすから降りられない女性に、黒羽さんとボランティアの深谷さんが両側にすっと寄り添い、ゆつくり中へ案内します。

ダイニングスペースでは男性の皆さんがソファでくつろぎ、女性の皆さんはじゃんけんをして部屋割り。すると、誰からともなく「乾杯しよう!」の声。全員がテーブルに着き、旅の疲れを冷たい飲み物で癒していました。プライベートのご旅行なので写真掲載は遠慮させていただきましたが、本当に楽しそうです。



# まついだ森の家はこんなお宿です♪

## 和室



2階の和室。大人数で楽しみたい方に。

## 洋室



洋室は1階と2階。車いすでも利用しやすい低めのベッド。飾られた花は森の家の庭や周辺で咲いているもの。

## 浴室



1階の大きな大きなお風呂と壁は木の香り。身体が不自由な方でも入りやすく浅めの設計。お好みでハーブや季節の菖蒲湯、柚子湯などをご用意。

## 階段



段差が低い階段。壁には工房あかねのアーティストの作品がたくさん（取材時）。

## つどいの間



憩いのダイニングスペース。地元の福祉作業所で作られたアクセサリーなども販売。

## 夕食



ゆったり、穏やか、丁寧に、お客様を迎える準備をする黒羽さん。



地元の食材や山の幸、無農薬野菜をふんだんに使ったお料理も。（写真は取材時のもの）

後日、グループのまとめ役である大曾根太比子さんにお話を伺いました。現在は車いすなしの生活を送る大曾根さんですが、以前は電動車いすの生活が長かったそうです。

「身体が不自由だと旅行は大変で、とくにトイレと食事する場所の確保に困ります。トイレはバリアフリーでも、そこに辿り着くまでがバリアフリーでなかったり。でも、同行する仲間やいろいろな人たちに支えられての旅だからこそ、そこで得る喜びは大きい。『家に帰ったら、また頑張ろう！』と元気がもらえるんです。今回の旅のメンバーのなかに、骨が弱く、車いすから降りられない女性がいました。森の家さんでは、エレベーターがないので2階に上がれないなどの制約もありましたが、彼女は『皆と一緒に泊まりたい！』と。黒羽さんはじめ、皆さん優しいお人柄で、気持ちよく、のんびり宿泊できました」

森の家でくつろいだ一行は、翌朝、世界遺産に登録された富岡製糸場へ出かけたそうです。

「事前に電話で問い合わせたら、『予報は雨で、車いすの方は見学が大変です』と。でも私は、こういう時にあきらめずに行っちゃおう。いざ訪れると、雨はほぼやみ、段差の所に滑り止めのある手作り板スロープを用意してくれてあったり、ボランティアの方が親切だったり、本当に楽しかった。心のバリアフリーというのか、結局は人間の優しさだなと。ハンディのある人が心地よく旅ができる場所は、健常者にとっても気持ちのいい場所のはず。これって、まちづくりも同じじゃないかな、と思いますね」

※8ページ右上写真の「まついだ森の家」のボードは、大曾根さんが手作りしたプレゼントです。



# “くつろげるお宿”から、 “住みやすい町”への夢。

NPO法人まついだ森の家 理事長 黒羽知代さん



「泊まれるお客様には最初に玄関でお名前を伺って、お声掛け、お話をさせていただきます」と黒羽さん。

私は横浜で、知的障がい者のグループホームの世話人をしていました。お世話になっていた福祉

関係のご夫妻から、「誰でも気兼ねなく使える宿を作りたい」と誘われ、田舎暮らしに憧れていた

ので、お手伝いすることに決めました。障がいの親御さんや福祉関係の皆さんの出資により、1996年に「まついだ森の家」が生まれました。2007年にはNPO法人化して、なんとかここまで続けてきました。おかげさまで、常連のお客様に恵まれ、正月、GW、お盆は予約でほぼ埋まります。1度泊まっていたかと、どんなサポートが必要なのかわかりますし、「こんなお楽しみを用意しよう」とボランティアさんとワークショップを考えたりもします。

私たちは「どなたでも泊まっていただけ宿」を目指しています。そのためには、「お客様に何が必要か」事前のやりとりが重要です。不安をなくしていたとき、その上で、お楽しみプランを一緒に考えたり、周辺のバリアフリー情報等を提供、時には事前に現地調査もおきます。身体障がいのある方や高齢の方はもちろん、発達障がい、知的障がいの方や子どもさんのサポートもしますし、慣れない旅行にお疲れのご家族の方にも、マッ

サージをして差し上げたり、リラックスしてもらいたいと考えています。

身体が不自由な人向けの宿と思われるかもしれませんが、実際には健常者の方のグループが6割、何らかのハンディをお持ちの方がいるグループが4割です。一般のお客様には事前に、「同宿の方が障がいをお持ちです」とご説明しますし、同宿するお客様と交流するなかで、「うちの甥っ子が発達障がいだ」といった話をされる方もいらつやいます。「うちの子は自閉症で、知らない人がいると緊張する」といったご家族や、グループでのご宿泊の場合は、貸切にすることもあります。

今年でオープンから18年。週に一度開く「森cafe」（予約制）やワークショップ、マルシェ、ミニコンサートといったイベント企画も盛んで、福祉関係の方など、若い世代の方々が運営に協力してくれるのも心強いですね。こうしたネットワークが少しずつ広がれば、誰もが住みやすい町へと育っていくのではないのでしょうか。

ここは首都圏より涼しく、朝は里山散歩、夜は星空観察が楽しめます。障がい者割引や、東京都在住の障がい者の方には補助制度（※）もあります。多くの方に来ていただけるとうれしいです。（談）



「まついだ森の家」の「森」の字は、「木」「水」「土」でできています。北海道のおじこと徳村彰さんの創字。「森は木と水と土とが命をはぐむ場所」との思いが込められている。「森の家設立にご賛同いただき、この字を使わせてもらいました」と黒羽さん。

## ボランティアの 皆さんから



### 高橋洋子さん

ここを訪れる皆さんは心が広くて、私はいつも幸せな気分になるんです。そばで知代さんを見ていると、「何か手伝うことはない?」と応援したくなる(笑)。最近、森の家の活動が多面的になってきて、ボランティアそれぞれが得意分野を活かせるようになりました。これからが楽しみです。



### 深谷智子さん

有料ですが、アロママッサージや足湯マッサージをさせていただきます。重い障がいのある子どもさんがベッドで寝たまま、ご両親と車で来られたことがありました。お母さまにマッサージして差し上げると、とても喜んでくれて、「初めての家族旅行なの」と話してくださったことが忘れられません。

(※) 宿泊料の一部を助成する「東京都障害者休養ホーム」認定。対象は東京都在住で、「身体障害者手帳」「愛の手帳」「精神障害者保健福祉手帳」を持つ方とその付き添いの方（障害者1名につき、付き添い1名まで）。助成限度額は障害者本人6,490円（子どもは5,770円）、付添者（大人のみ）3,250円まで（同年度内2泊まで）。



# まついだ森の家を 訪れた人たち

これまでにたくさんの人たちが訪れた、まついだ森の家。宿を訪れた人たちの素敵な表情の写真を、わずかですが、黒羽さんに選んでいただきました。

※まついだ森の家のwebサイトや『まついだ森の家通信』掲載の写真を黒羽さんのご了解を得て、転載させていただきました。



毎年、ヘルパーさんと一緒に来られます。



デンマークから、酸素ボンベ搭載の車いすにてはるばる飛行機に乗って来られたお客さま。

車いすバスケットのお仲間だという、おしゃれなおふたり。公務員さんです。



お食事は経管栄養ですので、皆と同じメニューは食べられないけれど、一緒の場で楽しく。



森の家の近所をお散歩中。



## バリアフリーペンション まついだ森の家のご案内

〒379-0211 群馬県安中市松井田町上増田670

**アクセス** 上信越道松井田妙義ICより15分／長野新幹線・安中榛名駅より車で15分／JR信越線西松井田駅より車で7分(駅まで送迎可)

**部屋** 1階／洋室2室(2人部屋)、2階／洋室2室(3人部屋エキストラベッド追加あり)、和室大(10畳)、和室小(6畳)

**宿泊料金(税込)** 1泊2食付／大人7,200円、小学生5,700円、幼児3,600円(素泊まり、1泊夕食付、1泊朝食付などのプランあり)、乳児はすべて無料

**チェックイン** 15:00 **チェックアウト** 10:00

**割引制度** 障がい者の方は宿泊費1,000円引き／東京都障害者休養ホーム制度あり(10ページ欄外参照)／福島県の原因事故に被災された障がいのある方とそのご家族、支援者の方は宿泊費半額

※貸し切りご希望の方はご相談ください

※ワークショップ企画は4人以上から受付。リース作り、つるかごあみ、生芋こんにやく作り、押し花絵、陶芸、草木染など、様々なプログラムあり(詳しくはお問い合わせください)

## バリアフリー設備のご紹介

- 屋根付玄関まで車を寄せられます
- 1階は玄関からすべてフラット
- 1階に車いす対応トイレあり
- お風呂はシャワーチェア・シャワーベンチ・可動式手すり
- 着替え用ベッドあり(お風呂設備の内のひとつです)
- 呼び出しベルをご用意 ● 酸素ボンベ持ち込み可
- ミキサー食・刻み食・アトピー食・食物アレルギー対応・減塩・好き嫌いなど対応
- 移動支援サービス提供 ● 福祉車両をご用意
- 盲導犬・聴導犬・介助犬、歓迎です!
- 足浴(フットマッサージ)、アロママッサージ等(有料)

その他、細々としたご相談まで応じます。ご遠慮なくお問い合わせください

## ご予約・問い合わせ

NPO法人 まついだ森の家

【TEL&FAX】027(393)0655

【Eメール】matsuida-morinoie-2007-npo@amber.plala.or.jp

[http://www.normanet.ne.jp/~morinoie/index.html/](http://www.normanet.ne.jp/~morinoie/index.html)

まついだ森の家



1階車いす対応トイレ。



盲導犬もお泊まり。

サポーター  
募集!

全国でも珍しいバリアフリーペンションの運営には、多くの方のご支援が欠かせません。よろしくお願ひします。

【年会費】10,000円、3,000円、1,000円

【振込先】ゆうちょ銀行00100-9-631710「NPO法人まついだ森の家」

※応援団会員には『まついだ森の家通信』(年2回)と各種イベントのご案内をお送りします。